



## トーキョーは、若い。

トーキョーは、新陳代謝をくり返す。  
急速に進むデジタル化もそのひとつだろう。それは、同時に  
新しい課題も連れてくる。デジタル格差だ。  
世代や事業規模の壁を超えて、すべての個人や企業の幸福に  
結びつくために。いま、トーキョーが試されている。

金融という立場から、きらぼしグループは、  
シニア世代へのデジタル支援を積極的に行なっている。  
その中心は、スマホ。手のひらですべてが完結すると同時に、  
リスクとの距離も近くなる。デジタルネイティブの若い行員たちが、  
お客さまを訪れ、丁寧にレクチャーしていく。  
支援は、シニアだけではない。中小企業の50%以上が  
DXに注力できない中、IT人材供給やシステム構築など、  
きらぼしグループならではの総合力を届ける。  
それらのコミュニケーションのあり方は、効率化を求める  
金融業界の流れとは真逆のものかもしれない。しかし、デジタル化に  
必要なのは、目を見張るテクノロジーだけだろうか。  
いや、違う。目の前の課題に寄り添う、人のチカラがなくては。

「アナログですよ（笑）でも、必要としてくれる人がいるから」。  
今日も入社1年目の担当者が、スマホの使い方を懸命に伝える。  
時代が進む速度にのせて、人も歩みつけようとする。  
ひたむきに前へ、前へ。だからこそ、トーキョーは若い。

TOKYOに、つくそう。



 東京きらぼしフィナンシャルグループ

 きらぼし銀行

 U-i Bank